

「日本3.0」

Vol.17

おじさん中心社会が終わり、若者の時代が来る

text by Norihiko Sasaki

文 佐々木 紀彦

2018年は明治維新150周年であり、実質的に平成の最終年となります。ひとつの時代の終わりと始まりを至るところで実感する1年になるはずです。

では、ポスト平成はどんな時代になるのでしょうか。

ひとつの大きなトレンドは、「おじさん中心社会の終わり」と、「若者の時代の始まり」だと予測しています。

今、日本の企業社会で起きている問題——その多くは、「おじさん中心主義」から生じています。

長時間労働、不毛な上下関係、男女差別、テクノロジーへの対応の鈍さなど、時代に合わない文化が温存されているのは、企業社会が「おじさん仕様」で形作られているからです。

しかし、ポスト平成が間近に迫る中、「おじさん中心主義」は急速に色あせていくはず。なぜなら、「おじさん中心主義」から脱却できない業界・企業は、有為な人材を採用できなくなるからです。

昨年末、アナリストで小西美術工藝社社長のデービッド・アトキンソンさんとイベントで対談した際、彼がこんな予測を述べていました。

「2050年までに、180万社ぐらゐの企業が消えると私は思っています。上の世代が引退していても、新たにその会社に行く若い人がいないからです。」

今後は若い人たちの時代です。労働人口が減って日本経済に打撃があれば、資本家や経営者は泣くかもしれません。が、若い労働者にとっては素晴らしい時代が来るはず。――

この予測に深く頷きました。今後、若者の人口に占めるシェアは減りますので、政治的には影響力が下がるかもしれない。

しかし、経済面、とくに採用面では「若者こそ神様」になるでしょう。若くて、デジタルネイティブで、時代の流れに適応しやすいことが絶大な価値になります。より希少な若者をめぐって企業の争奪戦がより一層加熱するはず。――

優れた企業、経営者は、こうした時代の流れを敏感に察知し、「おじさん中心」のシステムにいち早くメスを入れるでしょう。

逆に、「おじさん中心主義」のまま変わらない業界・企業は、若者や女性にそっぽを向かれて、急激に過疎化していくでしょう。20代の若者の離職率が高く、女性に人気のない企業は消滅の危機を迎えるはず。――

ポスト平成時代に起きるひとつの流れは、おじさんに対する若者や女性の下克上なのです。



Profile

NewsPicks編集長

1979年福岡県生まれ。慶應義塾大学総合政策学部卒業、スタンフォード大学大学院で修士号取得(国際政治経済専攻)。東洋経済新報社で自動車、IT業界などを担当。2012年、「東洋経済オンライン」編集長に就任。リニューアルから4カ月で同サイトをビジネス誌系サイトNo.1に導く。2014年7月から経済ニュースサイト「NewsPicks」の編集長を務める。著書に「米国製エリートは本当にすごいのか?」「5年後、メディアは稼げるか」がある